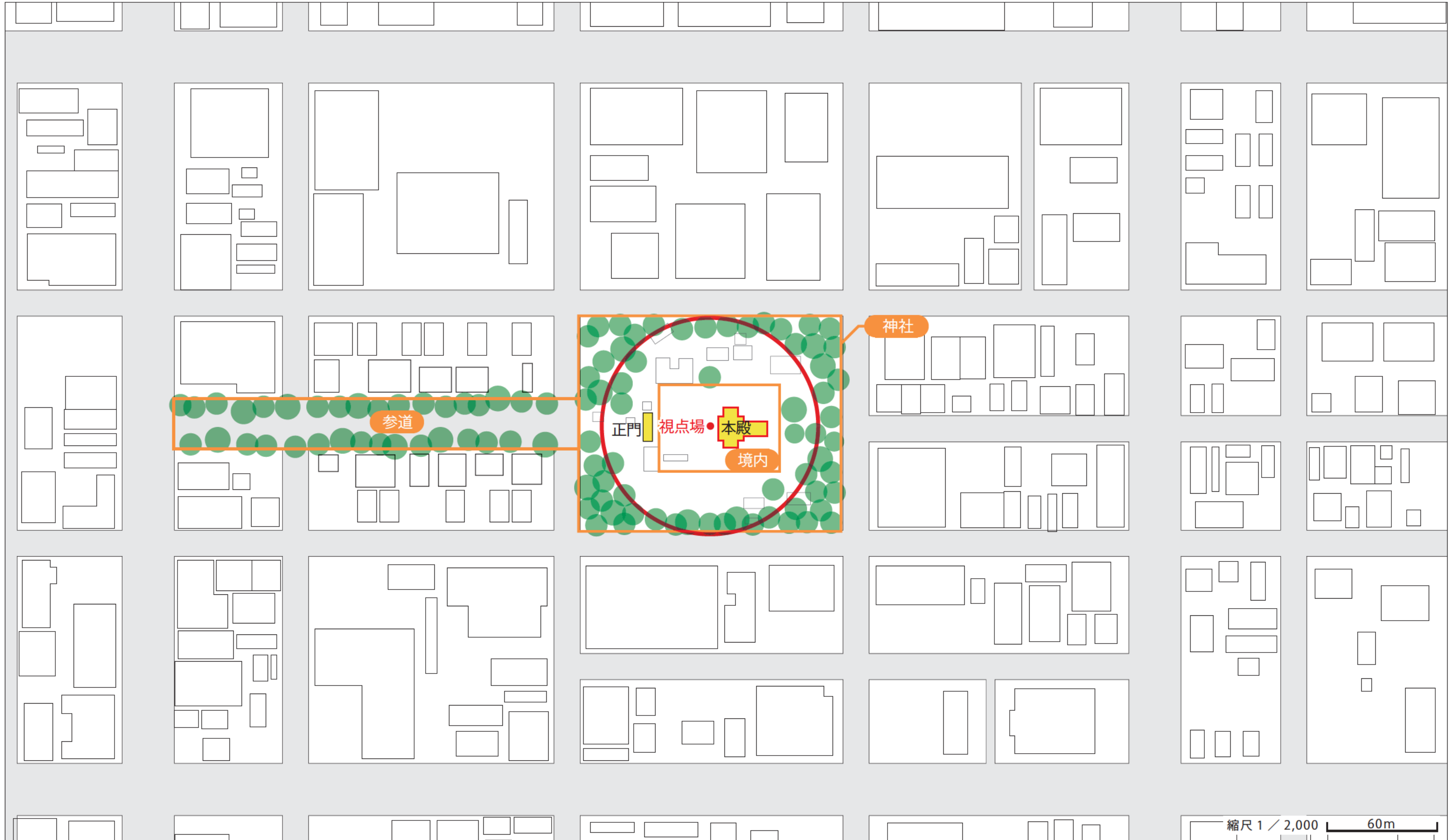


STEP 2：届出対象範囲の考え方

①地区の条件設定

エリア指定のケーススタディを右の条件のもと行う。

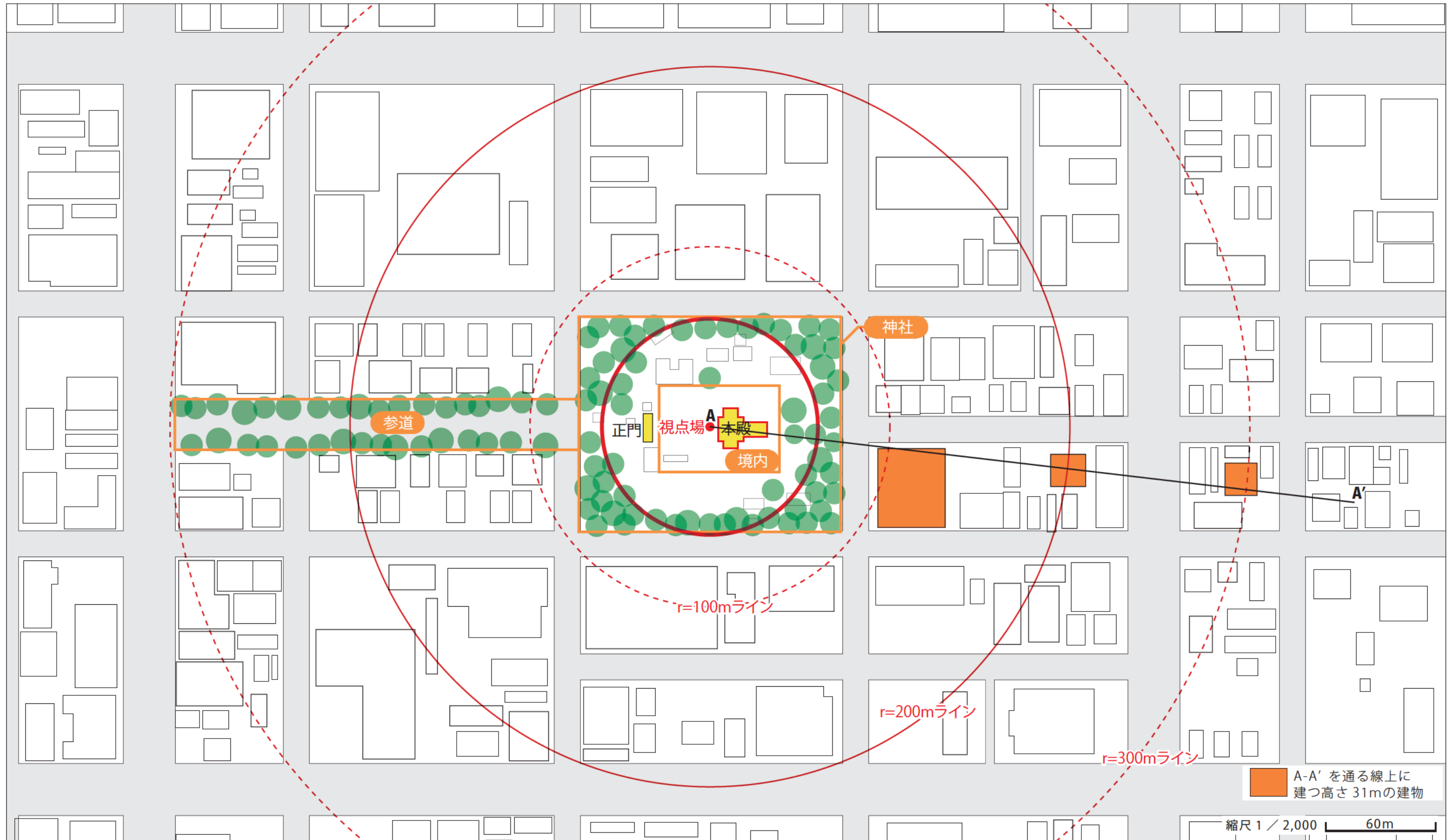
- 条件1：歴史資源は、商業地域にある神社の本殿とする。周辺建物は、住居系や業務・商業系が多く立地している。
- 条件2：神社の西側に参道が通り、神社と一体となって通り景観を形成している。
- 条件3：視点場を境内の中心とする。
- 条件4：神社の周囲は、高さ約10mの樹木で囲まれている。



STEP 2：届出対象範囲の考え方

②エリア指定の検討の方向

設定した条件のもと、景観誘導を図る歴史資源周辺のエリア指定について、視点場からの周辺建物の見え方の違いで検討を行う。
 エリア指定の境界を視点場からの距離 r の同心円と仮定した場合に、 $r = 100\text{m}$ (案 A)、 200m (案 B)、 300m (案 C) について、
 現行の届出対象となる高さ 31m の高さの建物の見え方の違いを次ページに整理する。



STEP 2：届出対象範囲の考え方

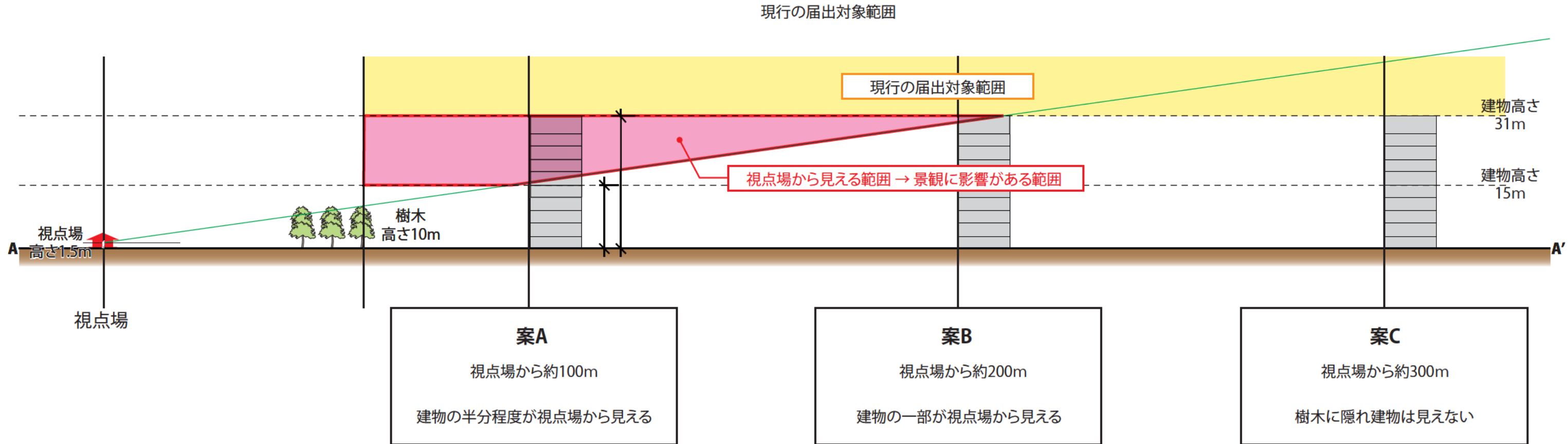
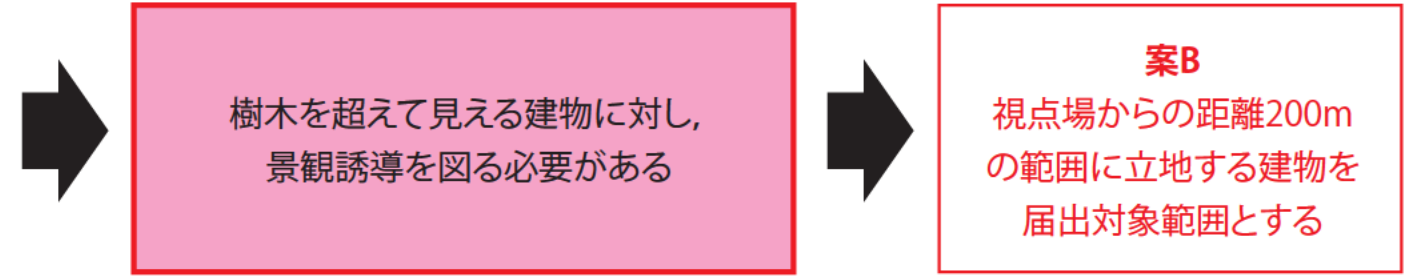
③視点場からの距離に応じた高さ31mの建物の見え方（現地調査による。）

神社の周囲が高さ約10mの樹木に囲まれている場合、高さ31mの建物の見え方は以下の通りとなる。

案A：視点場からの距離100m地点の場合、視点場からは樹木を超えて建物の半分程度が見える。

案B：視点場からの距離200m地点の場合、視点場からは樹木を超えて建物の一部が見えるが、建物の大半が樹木に隠れている。

案C：視点場からの距離300m地点の場合、視点場からは、建物は樹木に隠れてしまう。



◇イメージ



◇イメージ



◇イメージ

